

# 農 林 水 産 大 臣 賞 受 賞

“みんなが社員、みんなが主役” 農地と農業をみんなで守る

受賞者 いっばんしやだんほうじんみやがわ 一般社団法人宮川グリーンネットワーク  
ふくいけんおぼまし  
(福井県小浜市)

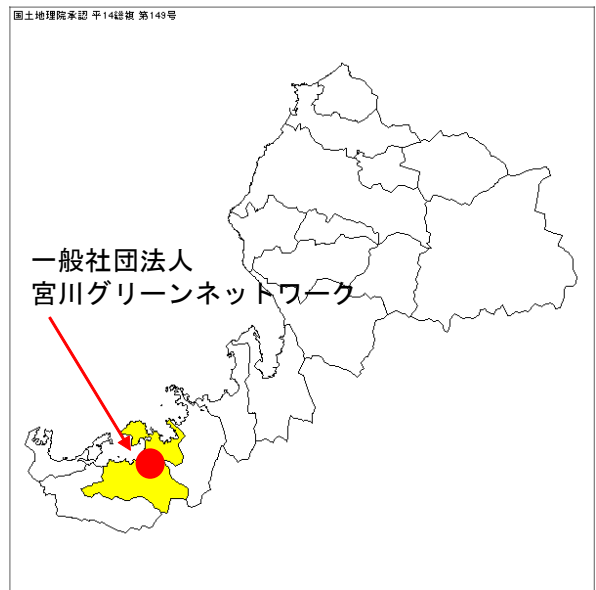
## ■ 地域の沿革と概要

「一般社団法人みやがわ宮川グリーンネットワーク」の所在する小浜市は、福井県の南西部、若狭地方わかさの中央に位置し、北はリアス式海岸の若狭湾に、南は海拔900m程度の低山地を介し滋賀県に接している。

この地は、古くから大陸交易の玄関口として栄えたほか、旧小浜藩おぼまはん十万石の城下町として栄え歴史も古く、国宝明通寺をはじめ著名な神社仏閣など数多くの文化財が残されており「海のある奈良」とも呼ばれている。

「宮川地区」は、小浜市の東端、一級河川野木川沿いに発達した小平野とその三方を山林に囲まれた谷部が農地として利用されている、水稲作が中心の農業地域である。

第1図 位置図



注：白地図KenMapの地図画像を編集

## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

宮川地区では、新たな地域運営を行うべく、平成28年2月に宮川地区の全住民が社員となる「(一社)宮川グリーンネットワーク」を設立した。

そして、農業基盤整備等による農地の集積・集約化の推進と、地区の公益的機能(地域資源の管理、地域活性化、雇用の創出、営農支援等)が始動した。非農家を含む宮川地区の全住民による社員化には、三方を山林に囲まれ、平野部から先は若狭

第1表 地区の概要

事 項	内 容
地区の規模	集落の集合体
地区の性格	機能的な集団等
農 家 率 (内訳)	22.3%
	総世帯数 251戸
	総農家数 56戸
専兼別農家数 (内訳)	専業農家 4戸
	1種兼業農家 2戸
	2種兼業農家 25戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積 1,498ha
	耕地面積 182ha
	田 181ha
	畑 1ha
	耕地率 12.1%
	農家一戸当たり耕地面積 3.3ha

注)H27農林業センサス

町となっている地理的条件による地区住民の連帯感や一体感から実現された。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

宮川地区は、これまで農地や農業用施設等の地域資源を保全するための公益部門については、6つの集落と、従来から多面的機能支払交付金の既存組織（旧）宮川グリーンネットワーク（任意団体）が担っていたが、高齢化の進展や担い手不足、集落毎に農地の基盤条件に差があることなどから、将来の農業経営に危機感が募り、むらづくりの枠組みを再構築し、効率的な地域運営を図る必要があった。



写真1 運営委員会の様子

平成26年度以降、福井県農地中間管理機構の創設をはじめとする施策を契機に、地域間競争力の強化を目指した広域営農組織化に向けた機運が高まり、既存の集落単位の2農業生産法人と2任意組織に、新規集積を加えた広域的な集積

・集約化の受け皿となるメガファーム：農業生産法人「株式会社若狭の恵」（以下、「(株)若狭の恵」という。）を平成27年7月に設立した。

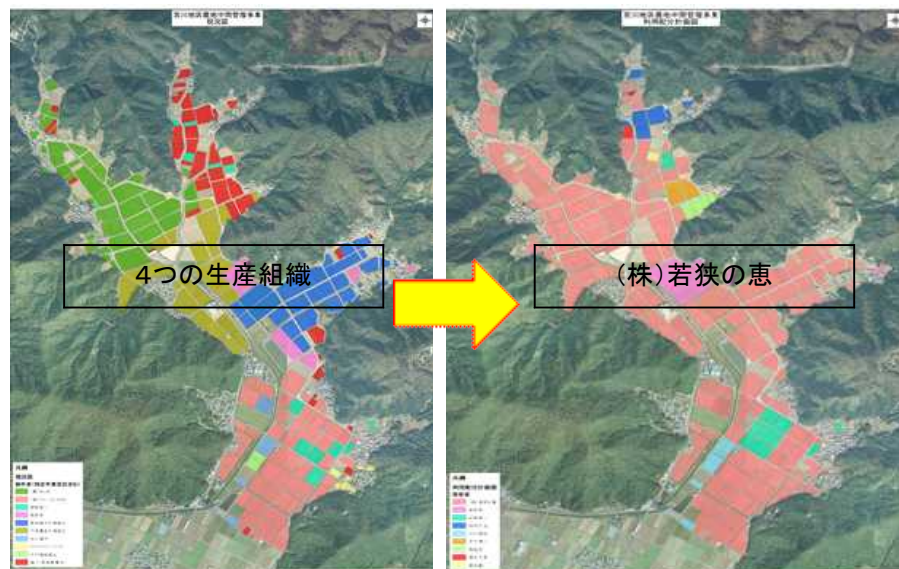


写真2 1法人へ農地を集積・集約化

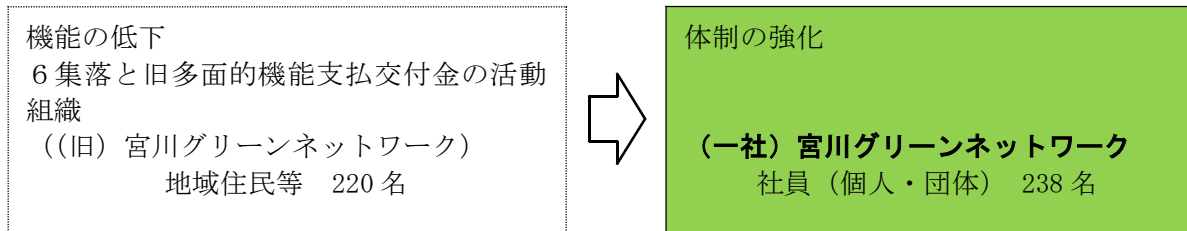
(株)若狭の恵は、宮川地区の農地の約220haのうち約143haを農地中間管理機構の事業の活用により、集積・集約するとともに、地区を一括した営利・営農部門を担う役割を果たすことになった。

しかし、営農の大規模化や一本化は、農家と非農家（賃貸借農地の土地所有者）との関係維持や、地域資源の適正な保全、農業と生活環境の調和などに課題を出現させ、調整等が必要になってきた。また、今後の農業情勢へ対応するため、公益部門と地域運営を担う、新たな組織が必要となり、平成28年2月に既存組織を継承し、「一般社団法人宮川グリーンネットワーク」（以下、「(一社)宮川グリーンネットワーク」という。）を設立した。

## 第2図 宮川地区の体制の強化

「H27以前の宮川地区」

「H28以降の宮川地区」



### (2) むらづくりの推進体制

(一社) 宮川グリーンネットワークが主軸となり、公益部門を担い、地区全体を運営するとともに、営利・営農部門を支援し、相互が補完し支えあう歯車、三位一体の体制を構築している。むらづくりの基礎となる「**農地と農業をみんなで守る**」を目標に“**みんなが社員・みんなが主役**”の**地域運営**をスローガンとして、人の輪：ネットワークによる地域資源の保全や営農を支援する活動を強化し、継続してきている。

#### ア、(一社) 宮川グリーンネットワークの構成

(一社) 宮川グリーンネットワークの社員は、宮川地区の全住民であると同時に、農地中間管理機構を通して(株)若狭の恵に農地を貸付けている農家・非農家でもある。組織の役員は、理事4名による理事会と監事3名で構成されている。業務執行理事等による運営委員会も毎月開催されており、民主的な運営が行われている。

(一社) 宮川グリーンネットワークの代表理事は、「小浜宮川土地改良区」の理事長、業務執行理事には、「(株)若狭の恵」の社長、女性代表・運営委員には「あばん亭」の代表等が選任されている

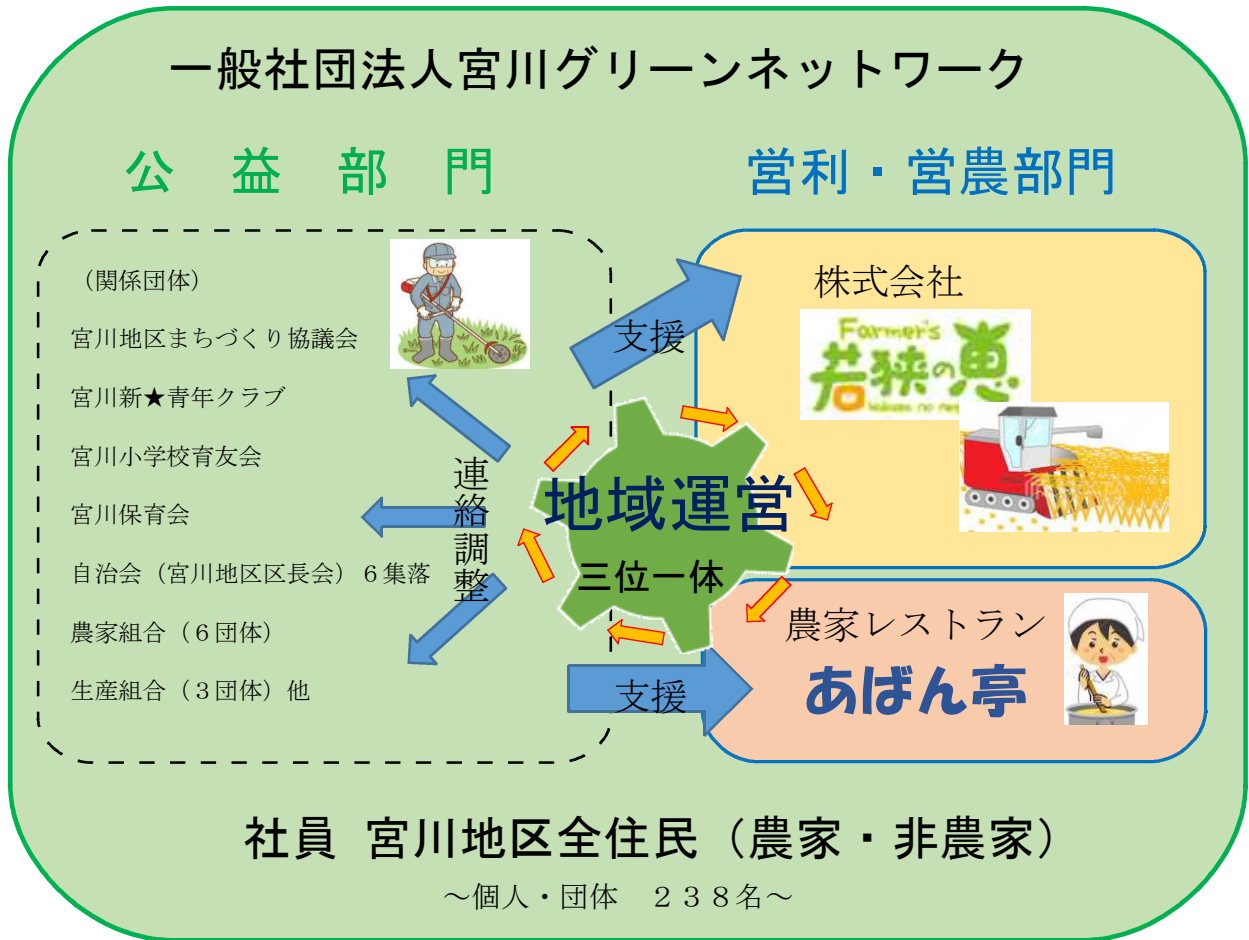
#### イ、(一社) 宮川グリーンネットワークの団体

(一社) 宮川グリーンネットワークの主な団体としては、平成19年度から開始された、多面的機能支払交付金の活動団体であった(旧)宮川グリーンネットワークを構成していた「宮川地区まちづくり協議会」などの9団体であり、(旧)宮川グリーンネットワークが解散すると同時に平成27年度から(一社)宮川グリーンネットワークの社員となり、公益部門の業務を役割分担し、継続している。

○ (一社) 宮川グリーンネットワークの主な9団体

- ・宮川地区まちづくり協議会(旧生活整備委員会)
- ・宮川新★青年クラブ    ・宮川小学校育友会    ・宮川保育会
- ・自治会(宮川地区区長会)    ・農家組合    ・稲作生産組合(任意)
- ・老人クラブ    ・小浜宮川土地改良区

第3図 むらづくり推進体制図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

古くから地理的条件などにより、培われてきた地区住民の連帯感や一体感は、今日にも受け継がれており、宮川地区の地域特性「地域のみんなで決める」につながっている。

現在、宮川地区全住民を社員とした、合意形成組織であり、公益部門の(一社)宮川グリーンネットワークによる「むらづくり」が行われている。

2. 農業生産面における特徴

農地の集積・集約化により、地区内の農家に「余剰労働力」が発生したため、多面的機能支払交付金の活動やイベント以外に、営利・営農部門の(株)若狭の恵への「営農サポート」が行えるようになった。

また、農家女性については、野菜の栽培や、農家レストラン「あばん亭」へ労働力を提供する日数等が増えるなど、雇用機会が拡大するようになった。

### (1) 営農サポート

(一社) 宮川グリーンネットワークは、(株) 若狭の恵が経営する農地の「草刈りや水管理等」の営農サポートを行う他、経営規模拡大を支援するため、農業経営者(農家)と土地所有者(非農家)との円滑化を図るため、土地利用や貸借の調整等も行っている。(再掲)



写真3 社員による水田の草刈り

この結果、(株) 若狭の恵はより一層、営農や基盤整備等に専念できるようになり、(一社) 宮川グリーンネットワークへ報酬(農作業委託料)が支払われている。

### (2) 農業基盤整備の推進

(株) 若狭の恵では、農業生産力アップに向けた新たな取り組みとして、将来的にも農業所得の向上を目的とした園芸施設や、地下水位制御システムなど基盤整備の推進により、更なる営農の効率化や高収益作物(ミディトマト、大豆など)の生産が行われるようになった。



写真4 大型園芸施設とトマト

### (3) 特産品の開発と販売

(株) 若狭の恵では、「ひまわり祭」(後述)で使用したほ場でひまわりを緑肥としてすき込み、特別栽培米の「ひまわり米」を生産し、ブランド化を行い販路の拡大を行っている。



写真5 ひまわり米

また、6次産業化の一環として、米粉製品を「道の駅」等で販売したり、みりんの試作なども行っている。

### (4) 雇用機会の拡大と地産地消

農家レストラン「あばん亭」(先述)では、発足当初は5名の農家女性からスタートしたが、今では地元の農家女性16名と男性1名を雇用している。常時13名体制で地産地消に取り組んでおり、農家女性の活躍の場となっている。(お米は(株)「若狭の恵」の米を使用している。)



写真6 あばん亭での弁当作り

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 共同活動による生活・環境整備等

##### ①多面的機能の発揮

(一社)宮川グリーンネットワークは、平成28年度から多面的機能支払交付金の団体の役割を引き継ぎ、景観形成活動の一環として、水路の法面などを利用したシバザクラやコスモスなど四季を感じる花の植栽活動を通して、地域コミュニティの維持・強化を図っている。

##### ②環境学習会の実施

環境学習会として、地区内に流れる一級河川野木川のぎに生息する魚類の生き物調査を小浜市立宮川小学校と連携して毎年8月に行っている。また、農業用ため池や水路においては、外来種(オオクチバス、オオカナダモ)駆除を地域住民と同小学校が連携して行っている他、田んぼを活用したビオトープを造成し、小学生を対象に環境学習会を開催し、地域の自然環境教育に取り組んでいる。



写真7 小学生との環境学習会

#### (2) コミュニティの醸成

##### ①伝統行事の保存

宮川地区には、古くからの伝統行事である「虫送り祭り」などは自治会や子ども会が中心となって行われている。また、自治会(宮川地区区長会)などが中心となって「どろんこバレー」もひまわり祭りの開催時に不定期に行われている。

##### ②都市農村交流

毎年8月中旬の土日に、観光客が訪れる「ひまわり畑」をメイン会場に『ひまわり祭』のイベントを開催し、都市住民等との交流を図っている。

「ひまわり畑」の観光地化による交流人口としては約40,000人(平成28年)の来訪となっている。平成29年度は、約140万本(約9ha)を植栽したところ、約41,000人の観光客が来訪し、



写真8 ひまわり畑と観光客

年々交流人口が増加してきている。

### (3) その他（空き家対策）

平成29年より、小浜市とタイアップして、地区内に約11戸ある「空き家」情報を収集・整理し、空き家を都市住民等に貸し出しするお試しツアーが行われている。一部の空き家については、「農家カフェ」の開店に向けた取組も進められている。

以上のように、人の輪に着目しながら既存組織を再編し、地区の全住民と関係団体を社員化（一般社団法人を設立）させ、農業に軸足を置きつつ、メガファーム等を支援する地域運営は新たな手法である。

この（一社）宮川グリーンネットワークのむらづくりを全国に情報発信することは、集落機能の低下や担い手不足、農業の高齢化等で危機意識がある地域においては、先導的な取組事例となり、地域創生・活性化の一助になることが期待される。